

第3回栄村むらづくり懇話会

—生活基盤部会—

(Q : Question, A : Answer, O : Opinion)

◎全体を通じて

Q : そのままの質問になってしまうが、今作られている素案というのは、今後村の中で具体的にどういった形で反映されていくのか教えてもらいたい。

A : 今後10年先を見越した基本構想がつくられ、その議論の後に更に細かい基本計画兼復興計画というものがつくられる。これが村の上位計画であると、つまり行政が今後施策を展開するうえでの柱になる計画となる。これがさらに細かくなると実施計画というものがある。そのため、今議論している素案では具体的な実施計画までは盛り込まない。

第1節 国県道

第2節 村道

第3節 農道及び林道

第4節 公共交通

Q : イベント列車については、村としては続けてもらう方針なのか。

A : 今回のものは、近隣の市町村と要望してJRに依頼したもの。この一度限りで終わりにしてしまうのも勿体無いと思う。

O : チケットも販売直後に完売したと聞いている。それだけ魅力的な線であるということ。

第5節 冬期間の交通確保

第6節 情報通信

Q : 秋山郷の観光地無料Wi-Fiの整備とあるが、今現在、村内で実際に無料Wi-Fiが使えるところはあるのか。例えば、道の駅など人が集まる場所など、分かる範囲で良いが。

A : 森野宮原駅と道の駅は、別の事業でかなり前に設置している。また、スキー場のセンターハウス内に設置している。他にも、独自に設置している場所があるかもしれないがそのあたりは把握していない。

O : 今後、秋山の観光に力を入れていくという方針は聞いているが、若い人たちはWi-Fi頼ってくるであろうし、設置している施設を相当便利に使うことが想定される。人が集まる場所にはWi-Fiがあった方がより良いだろうと思う。ここに記載されている「など」

には、それが含まれていると思ったのだが発言させてもらった。

- Q: 他の利便性を考え全体にかかるのか、観光に特化するのかなどによって表記は異なってくると思う。趣旨を伺っていると、秋山の観光が主体だと思うので「観光スポットに」という表記の方がわかりやすいのではないか。
- O: 「光ファイバーによるネットワーク」の最後に「必要です」という文言が入っているが、今の段階でも「活用する」という話をもっと入れた方が良いと思う。ケーブルテレビは全家庭に入っているので、単純に空きチャンネルに静止画を流すことなどはできるのではないかと思う。耳が遠くなっている方も増えているなかで、音声だけだと伝わらなくなってきている。それに対して、例えば同じ放送に絵だけ又は文字だけの画像を流せば、耳が遠い人にも情報が届くはず。それは、今の状態でもできるはず。そのため、まずは「活用する」ということを考え、そのうえで更に有効なメディアなど「一段上のコンテンツをつくるマンパワーを」と入れていただければと思う。
- Q: それは独自チャンネルを活用してということの良いのか。
- A: そういうことになる。空いているチャンネルで村から情報を流すことはできるはず。
- O: 以前、今の技術・設備ではそれができないということ聞いたことがある。もう一步ステップアップした設備が必要になってくるはずである。これからそれをやるのであれば、それなりの予算が必要となってくるのではないか。
- O: 少しだけ手を入れれば、今はパソコンから流すこともできる。以前設備を拝見したことがあるが、できるように思われる。せつかくあるものなので、多少の投資でできるのであればやった方がいいのではないか。

第7節 上下水道

- Q: 排水施設が相当な費用がかかって、今後それに代わるものに作りかえることはあるのか。それとも、今のものを適正な維持管理に努めざるを得ないのか、今後の可能性を教えてください。
- A: うちの施設は、管路で一つにつながりシステムになっている。浄化槽は各戸で管理していることから、ある程度人口が減ったとしてもあまり影響は無いのだが、集合下水はどうしてもロスが出てしまう。当時は人口も多かったことから、かなり大規模な設備を作らざるを得なかった。ではどうするかという話にはるが、今のところは継続していくしかない。先を見据えると深刻な問題。
- O: ここに書いてある文章をみると、今の施設をあくまで使っていくという前提しかみえないので、5年10年を見据えた文章にするのであれば、もう少し「適切な改善策を検討しながら」というような表現になってもいいのではないか。

第8節 環境衛生

○：前回の懇話会で、不法投棄をどのように防止するかという話が出たので、資料を持ってきた。ここに掲載されている事例も参考にしてもらいたい。

第9節 消防・防災・交通安全・防犯

○：消防団員などについてここまで具体的に書くのであれば、地域によっては自主的に取り組みなければならないということを盛り込んだほうがいいのではないか。

○：消防団の制度は全国で定められているが、日本中が高齢化しつつあるなかで同じような悩みを抱えている地域もあると思う。都市部と同じように若い人を確保できる地域と、高齢化が進み人を確保できない地域とで、制度が全く同じというのはおかしい気がする。

A：県の自主防災組織というのは、組織の委員長、副委員長、幹事のように配置することを自治体に要請している。昨年、防災を担当した際に総務課長から言われたのは、集落の中で新たな「役」を設けることは困難であり、今ある組織が自主防災なのだということ。これを県に説明し、小さい村、小さい集落にはこういったことがあるのだということ。逆に県に訴えていくのも仕事だということだった。集落＝自主防災なのだという意識を、住民の皆さんに啓蒙し普及させていくことも必要。

○：そうすると予算がつかないことになる。それが消防団との違い。やる気のある方が地域に来て、訓練をやってみると気付くことがあると思う。

第10節 雪対策

○：雪をもっとアピールする必要があると思っている。今記載されている数行だけだと、勿体無い。スキー場で雪を活用して、「商品化」や「人が来るような展開を模索する」といった記載があっても良いのではないか。スキー場以外にも、他の集落で人が来るようなイベントを開催したということもあったので、この文章にもう少しボリュームがあれば、雪を活用した観光事業を頑張っていくのだという意気込みが伝わるのではないか。

○：前回も、農産物に限らずということでも話をしたが、観光面における事業化や、雪利用により活性化など、具体的に「雪を使ってどうするのか」ということを入れていただければ、研究に留まらない形になると思うので、是非積極的にお願いしたい。

第11節 住宅対策

第12節 自然保護と景観

以上